

ウチヌキ・インダストリー始動



バンコク市内、空港からも近い工業団地に位置する工場

現地レポート

日本のパンチングメタルメーカーとして初めてタイに進出したウチヌキ（本社・神奈川県綾瀬市、社長・中尾健太郎氏）。8月から本格稼働を始めたウチヌキ・インダストリー（本社・タイ王国サムットプラカーン県、社長・岩佐昌宏ウチヌキ常務）を訪れる機会を得たので現地をレポートする。

（伊藤 健）

ウチヌキ・インダストリーはバンコク市内、空港からも近い工業団地に位置する工場

（4基の自動ライン）、グメタルの製造技術の製品の市場は拡大傾向3基の高速プレス機 研修を受けており、タイにあるものの、パンチ（60ト、40ト、30ト）の新しい工場の稼働とともに、インダストリー（本社・タイ王国サムットプラカーン県、社長・岩佐昌宏ウチヌキ常務）を訪れる機会を得たので現地をレポートする。

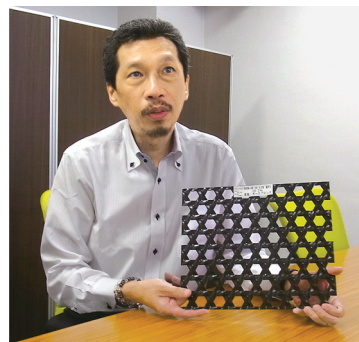
品質で現地材と差別化

建材関連など 多様な需要先に拡販

県内TIP工業団地に位置する。同工業団地内には日系企業が多数進出している。工場概要は、建屋面積が1600平方メートル、設備の大半はウチヌキ福島工場から移設。現場のスタッフは昨年などの建材の需要として、パンチングメタル

タイ国内では道路や品質なパンチング製品もスチールやステンレス、アルミなどの金属に提案しながら、需要穴あけ加工も可能だ。ビルや住宅などの建

パンチング製品の品質面を強調する岩佐社長



材関連向けでは、積極的な営業提案を推進することで需要を掘り起こしていく方針だ。

や設備などで使用されるステンレス製のフィルター用の製微細孔パンチング製品の生産を開始している。

同社の穴あけ技術の精度は、パンチング口の径が最小0.3mmから可能であり、加工素材もスチールやステンレス、アルミなどの金属に提案しながら、需要穴あけ加工も可能だ。ビルや住宅などの建

